

釧新郷土芸術賞に輝く

受賞者の
横顔

五十七年度釧新郷土芸術賞の受賞者が決まった。郷土の芸術振興のため、積極的な発表活動と後進の育成につとめ、芸術の追求にまい進している人たちが、絵画では自然と人間の関わり合いを厳しい北の風土に求め続ける油絵の高橋康夫さん(四六)、音楽では市民合唱の指導にあたり、その底辺拡大に貢献してきた伊藤功俊さん(四六)の二人。二十四日の授賞式を前に、その業績とプロフィールを紹介する。

厳しい北の風土絵筆に

自然と人間の関わり合い追求

〈絵画〉高橋 康夫さん

四十二年から、厳寒の知床に続いて続けた。凍てつく浜辺にイーゼルを立て、一日中絵筆を走らせる。体のしんから冷え込み、かじかんだ手をこすりながら、ときには雪の中を走り回って体を暖めながら

現場での制作に取り組んだ。知床の流水に、高橋さんが見たのは、じつと耐える人間の営み。耐えてこそ、春の喜びもある。それは、自然界で言えば四季のめぐりであり、流水に埋め尽された海

にも、やがて訪れる春の予感がある。それが、執ようなまでに、流水に取り組み続けてきた高橋さんのテーマだ。昨年、ヨーロッパを研修旅行した。長い歴史を厳然と生き続け、今も人間と一体となっている石造りの建て物は、驚きだった。その歴史の重みの前で「流水を描きな

から、腕力で人間を表現しようというこれまでの自分の制作姿勢のふらちさを思い知った」という。見えてくるままに、自然が語りかけてくるままに、素直に従った色彩表現は、ヨーロッパ旅行の大きな収穫。今年七月に開いた個展への評価も、その進境に対するものだ。

白糠中学校勤務時代の、池田誠さん(一水会)との出会いが、本格的に制作活動に入るきっかけとなった。「今ようやく、絵画をつくるという仕事の入口を開けてもら

熱情に指導の

も貢献に大



〈音楽〉伊藤 功俊さん

がうかがえる。教育大教授の忙しい身で、市民の合唱指導にも情熱を傾け、ママさんコーラス、市民

合唱団など底辺を広げてきた。伊藤さんが市民コーラスの指導を手掛けたのは昭和三十三年、釧

◇ ◇ ◇
昭和十一年、斜里郡清里町に生まれる。三十四年、道学芸大学(現在の道教育大)を卒業し、阿寒町共和中学校に勤務。部落までトロッコで入るような、辺地の人々の生活に触れたことが、のちの絵画制作のテーマの底流となったようだ。四十四年から一水会展、道展に入選。四十五年釧路市日

進小学校勤務。四十七年、道展で財界さっぽろ賞受賞。五十年、「流水のまち」が釧路市買い上げに。五十一年から釧路市東中学校に勤務し、現在に至る。五十四年に第一回個展。五十六年、ヨーロッパ美術研修旅行。今年の一水会展で佳作賞受賞。七月に釧路で二回目の個展開催。釧路市武佐四の二九。
「責任を感じる」と語っている。